

# Bonjour

ボンジュール!!

2014年  
12月5日号

Vol.195



## 12月の見通し 我慢強く買い場探し

### ● 原油安は恵みの雨

世界の需要が十分に強いとはいえないなか下落している原油価格。これは資源国にとっては逆風であるため、ブラジルやロシアでは通貨防衛のために利上げや為替介入に追い込まれました。しかし、世界全体で見れば資源が安いことによってガソリン代などの支出が減り、その分消費に回すことができるなど「恵みの雨」といえそうです。仮に、原油価格が25%下落したとすると、向こう1年間の世界のGDPは0.4%押し上げられると同時に物価は0.5%低下すると見られています。

### ● 自民党圧勝からの日本株強気

日本の7-9月期のGDPの予想外のマイナス成長を受け、安倍首相は来年10月に予定されていた消費増税の延期と解散・総選挙に踏み切りました。これを受けて市場は、円安・株高に振れていますが、これは消費増税の延期によって日本の政策が「財政引締め＋金融緩和」から「財政緩和＋金融緩和」というアクセル全開の組合せへと移行したことが影響しています。世論調査通りに自民党が圧勝することとなれば、日本株に対する強気論はさらに高まりそうです。

一方、財政健全化目標の達成が困難になったとの懸念から米国の格付機関によって日本国債の格付けがAa3からA1へと引下げられました。このため、為替市場では一時7年ぶりの120円台をつけるなど、日本売りの様相を呈し始めています。心理的な節目である120円を上抜けた場合、次のターゲットは2007年6月の高値である124円15銭と見られますが、当面為替相場の動向にも注意が必要です。

### ● 割高に売りなし

株価のバリュエーション(投資価値評価)を見ると、米国株式は最も割高な地域の1つといえ、また短期間で上昇した日経平均株価にも過熱感が見られます。相場の格言に「割高に売りなし」とありますが、株価が割高になるには好材料があるからで単に割高だからといって売却するのも得策ではありません。米国は、経済が堅調で魅力的な投資先であるといえますし、アベノミクスを信任する民意が示されれば、日本株の上昇が続くこともありえます。一方、欲張り過ぎることを戒める「まだはもうなり」等の格言もあります。色々悩みは尽きませんが、年末の大晦日には除夜の鐘を撞いてひとまず煩惱を払い、冷静になって来年に備えましょう。

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。